

Rapport (ラポール) とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報誌「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ
コミュニケーション誌です。

発行者/多摩大学 発行日/2021年9月30日
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1 TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7103
<https://www.tama.ac.jp/>

Rapport

2021
Number
114

多摩大学 | 広 報 誌 |

Vol.114 Contents

多摩大学 2020年度秋学期 成績優秀者	02
飛騨高山アクティブ・ラーニングプログラム	02
2021年度 第1回 SRC	03
〈経営情報学部〉教育セミナー・後援会定期総会	04
〈グローバルスタディーズ学部〉第13回 後援会定期総会	04
【対談】三井情報株式会社 浅野謙吾社長×多摩大学 寺島実郎学長	05
両学部で新たな取組みが始動	06
【産官学民連携センター】	
多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト	07
多摩地域の企業/寒川町観光協会	08
お知らせ	08

多摩大学 2020 年度秋学期 成績優秀者

2020 年度秋学期 成績優秀者奨学金奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

●経営情報学部

■ 1 年次
・区分 1

学生氏名
田中 湖雪

■ 2 年次
・区分 1

学生氏名
佐野 有美

■ 3 年次
・区分 1

学生氏名
白井 ほのか

・区分 2

学生氏名
青柳 宇輝
伊藤 将吾
尾崎 真由子
加藤 迅人
シュウソシュウエイ
田中 温人
中川 皓太
長田 華山
中台 葵
西潟 沙世
馬場 啓介
藤原 由翔
藤森 龍
松川 正輝
丸山 将平
米澤 珠巳
柳萬 真伸

・区分 2

学生氏名
厚母 春花
安藤 麻沙未
内田 慎吾
大澤 舜
梶本 凌平
河内 颯斗
キム ドンミン
倉林 さくら
小林 明日香
佐々木 秀崇
佐々木 珠莉
杉立 沙里
名古 翼
茂木 香樹

・区分 2

学生氏名
石原 滉大
小川 悠介
金子 慎吾
亀井 正弥
栗田 泰英
小日向 龍人
佐藤 悠騎
塩澤 侑奈
外川 拓実
西田 翔一
伏見 凜久斗
前里 海都
前島 秋
松井 海人
柳 瑛登
山岡 義史
山田 滝
若林 直哉
和田 彩佳

●グローバル・スタディーズ学部

■ 1 年次
・区分 1

学生氏名
清澤 拓己

■ 2 年次
・区分 1

学生氏名
宮野 伊織

■ 3 年次
・区分 1

学生氏名
ジャリーバーバアナスシア

・区分 2

学生氏名
大高 ももな
岡崎 優斗
佐野 磨李
上甲 遥
滝川 夏綺
ハミード ハムザ
林 梨乃
福島 愛海
世安 爽愛

・区分 2

学生氏名
小山田 桜
川口 愛未
久保田 眞司
櫻田 京佑
関口 楓
原田 亜伶
宮良 あこ
横山 紗弓

・区分 2

学生氏名
開田 旭
加藤 とまむ
河内 董
佐藤 雪乃
柴田 恭介
内藤 歩
松田 玲奈
四枝 大樹
和田 竜弥

※氏名 50 音順

※学年は 2020 年度のものとなります

飛騨高山アクティブ・ラーニングプログラム 実施

2021 年 6 月 27 日 (日) ~ 29 日 (火)、2021 年度春学期の飛騨高山アクティブ・ラーニングプログラムを実施しました。今回のテーマは「久々野地域でだれもが思わず写真を撮り、SNS 等で発信したくなるようなフォトジェニックスポットづくり」で、新型コロナウイルス流行に伴う感染拡大防止を鑑みて、プログラムは全てオンライン (ZOOM) による実施となりました。

今回は久々野中学校と帝塚山大学、多摩大学による合同で、参加者は多摩大学 21 名 (多摩大生 18 名、金美徳教授、野坂美穂准教授、教務課 福井佑典職員)、帝塚山大学 6 名、久々野中学校 33 名の計 60 名でした。

6 月 13 日 (日) の事前学修では、久々野まちづくり運営委員会、帝塚山大学とのワークショップを実施し、地元の中学生在が撮影した写真などを元に、フォトジェニックスポットについてプレゼンの準備を行いました。

6 月 27 日 (日) ~ 29 日 (火) の当日は、帝塚山大生、多摩大生が久々野地域の中学生とワークショップ、プレゼンテーションを実施し、意見交換も行いました。

今後は、提案したアイデアの実現可能性を考えながら、実際に久々野町にオブジェ等を設置し、その効果の検証等を行う予定です。



2021年度第1回SRC (Student Research Conference)

2021年7月29日(木)、多摩キャンパス211教室と212教室、221教室にてSRC (Student Research Conference) が開催されました。SRCは経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年2回(夏・冬)行っています。今回のSRCでは50件と例年よりも多くの発表があり、1件につきM10分、L15分の発表時間が与えられ、教員や学生からは様々な質問や意見、アドバイスがありました。



教室	時間	名 前	タイトル	ゼミ名
211	L	井上 滯夏、久嶋 恵弥、六ヶ村 晋之介	コンビニ業界の人手不足問題	バトルゼミ
	L	王 旭森、長田 華山	多摩地域の高齢化に向けたコンビニの在り方—セブンイレブンを事例として—	バトルゼミ
	M	伊藤 太陽、佐藤 直樹、佐々木 大成	高齢者に向けたキャッシュレス化の促進	バトルゼミ
	M	三橋 一聖	本や教科書のリユース	バトルゼミ
	M	佐藤 智甚	大学生でもできるスモールビジネス	バトルゼミ
	M	松下 純、シュウ ソシュウエイ、ティ シセイ	居民委員会と町内会の比較分析から見る日中の少子高齢化対策	バトルゼミ
	M	池田 賢吾、城所 大心	デジタル技術(VR・AR)を活用したデパート業界の今後の在り方について	バトルゼミ
	M	町田 龍星、吉原 瑠久、野寺 充峻、福澤 歩夢	コロナ禍の観光業とその先	バトルゼミ
	L	山田 祐輔、関根 瑠星、萩原 大輝	コロナウイルスをめぐるアジア地域の現状	小林昭菜ゼミ
	L	古屋 祐樹、高橋 芳、吉田 ユリカ	ヨーロッパ地域のコロナウイルス感染状況	小林昭菜ゼミ
	M	陸 彩菜、大谷 彩花、近藤 海優、竹内 海斗、竹留 冬真、寺岡 諒人、野口 学、星 遥斗	たまリンピック	梅澤佳子ゼミ
	M	磯部 直樹	まちづくり 都市再緑地化への課題	中庭光彦ゼミ
	M	大野 将来	サブスクリプションサービスの収益モデル構築と活用の可能性	中庭光彦ゼミ
	M	小泉 翔太	南足柄市の交通と経済	中庭光彦ゼミ
	M	織田 一宏	地方創生とコンパクトシティ	中庭光彦ゼミ
	L	篠原 洸、荒井 四海、山口 誠也	国内都市にみるコンパクトシティ戦略 これからの地方都市像	中庭光彦ゼミ
	M	梶本 凌平、青木 柊吾、荒金 匠、今別府 大志、峯脇 由暉、村山 昂大、吉田 武司	北杜市から考える持続可能な観光地～DMOによるマネジメントの持続可能性の観点から～	中庭光彦ゼミ
	212	M	青木 一輝	コロナ禍によって需要を高めたハンドクリーム
M		太古前 虎汰郎	ICTクラブ	ICTクラブ
L		小須田 龍博	AL プログラム「問題解決型データ分析実践」での学び	AL プログラム
M		島谷 星羽、鈴木 麻実花、横山 さくら	AI は人間の仕事を奪うのか	下井ゼミ
M		花井 琴美、坂本 明香	海外留学はするべきか	下井直毅ゼミ
M		鈴木 雄登、堀井 瞳来	ネット言論は規制すべきか	下井直毅ゼミ
L		堀川 舞、栗本 海地	日本は移民難民をもっと受け入れるべきか	下井直毅ゼミ
M		松川 正輝、菅原 大貴	生活保護とベーシックインカム 貧困対策はどちらがいいのか	下井直毅ゼミ
M		谷部 翼	犬の殺処分	大森拓哉ゼミ
M		八木 稀央	学食は必要か	大森拓哉ゼミ
M		奥嶋 健太	オートバイの流行、これからのについて	大森拓哉ゼミ
M		高橋 大樹、鶴屋 隆之介、木村 達希	現代の大学生の睡眠に対して	大森拓哉ゼミ
M		安藤 七海	学内の消毒用アルコールの使用率について	大森拓哉ゼミ
M		竹内 啓恭、出縄 竜也、外山 衣瑠奈	コロナ禍による学生の収入の変化	大森拓哉ゼミ
M	飯田 葵大、ホウリン、中園 龍斗	コロナ禍における人々の意識の変化	大森拓哉ゼミ	
221	M	飯塚 翔太郎、大森 脩平、加藤 瑠、齋藤 桃花、並木 樹穂	後悔が多い人は、大学でのストレスも大きいのか？	加藤みずきゼミ
	M	岡本 颯人、大水 康平、小俣 委、坂本 果倫、東良 紗里	後悔追求者尺度と優柔不断尺度との関連についての検討	加藤みずきゼミ
	M	四ツ車 昌	今使っているスマホを選んだ理由に関するアンケート結果	大森拓哉ゼミ
	M	小林 拓視	スマホの使用率はどのくらいか、また日頃のストレスによって中毒になりやすいのかが決まるのか	大森拓哉ゼミ
	M	宮川 歩花	音楽によるイメージ調査	大森拓哉ゼミ
	M	太田 凜音	香水のイメージ調査	大森拓哉ゼミ
	M	久保田 彩音	ブランドイメージの調査	大森拓哉ゼミ
	S	大澤 貴光	出会い系の実態調査	大森拓哉ゼミ
	M	河内 颯斗、近藤 雄太、横山 歌穂	料理はすべき？	大森拓哉ゼミ
	M	村田 晴斗、阿部 由暉	コロナ禍での食堂改善	彩藤ひろみゼミ
	L	濱大 貴、倉林 さくら、高橋 勇登	バーチャル多摩大学を使ったゲーム構想	彩藤ひろみゼミ
	M	町田 ひかる、谷下 慈冬、他、彩藤ゼミ3年生全員	バーチャルカラオケルーム	彩藤ひろみゼミ
	L	柳萬 真伸	1年後期からの1年間の学び	出原至道ゼミ
	L	尾崎 真由子	気体流量センサを用いたクラリネット練習システム	出原至道ゼミ
L	関 悠伍	Discord APIを用いた練習試合募集用マッチメイキング Bot	出原至道ゼミ	
L	杉山 直哉	VRを用いた警備体験システム	出原至道ゼミ	
L	Nicolas JATOB, Marine ELISABETH, Stella THAMMAVONG	Bardventure : A VR Rhythm Game	出原至道ゼミ	

教育セミナー・後援会定期総会 開催

2021年6月27日、多摩キャンパス001教室にて、経営情報学部保証人（ご父母）様を対象とした「2021年度教育セミナー・後援会定期総会」（後援会主催）を開催しました。教育セミナーでは、教員による教育方針説明・教育活動報告、学生による学修成果報告がありました。また、セミナー終了後には後援会定期総会が開催され、2020年度事業報告案および決算報告案と2021年度事業計画案・予算案の承認、後援会役員の選出が行われました。

○教育セミナー

(1) 経営情報学部の教育方針 副学長・経営情報学部長 杉田 文章

多摩大学の基本理念は国際性・学際性・実際性。グローバルかつローカルな学びで学際性を備えた人材を育成、教員には産業界の最前線で活躍する人材を登用し実社会を学内に取り込む。また、ALプログラム・ゼミの学外プロジェクト、企業・自治体等との連携、インターンシップなどにより学生を実社会に連れ出す。一気通貫の「キャリアデザイン」教育、教員と専門スタッフが連携したキャリア教育とキャリア支援など、手づくりの教育について説明しました。

(2) 経営情報学部の教育活動報告 経営情報学部教授・教務委員長 小西 英行

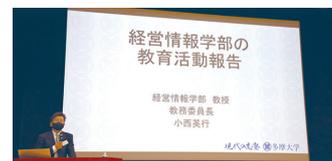
新型コロナウイルス感染症禍における教育活動として、①2020年度春学期の遠隔授業対応、②2020年度秋学期の対面・遠隔併用授業対応、③2021年度春学期の完全対面授業対応について報告。2017年度春学期から2020年度秋学期までの学年ごとのGPA^{*}の推移を表で示し、学修成果を確認しました。 ※「Grade Point Average」の略で、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものの。

(3) 学修成果報告 経営情報学部 学生 2名

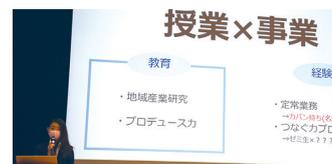
経営情報学部4年の間淵雅也さんは小西英行ゼミの特徴、商品企画・販売実習やビジネスコンテストへの参加など学外活動を報告。同学部2年の佐藤梨花さんは長島剛ゼミの概要、多摩地域マイクロツーリズムプロジェクトにおける経験と学びについて報告しました。発表後に行われた会場との質疑応答では、ホームゼミの仕組み等について質問がありました。



杉田副学長・学部長の講演



小西教務委員長の教育活動報告



学生による学修成果報告



後援会定期総会の様子

第13回 後援会定期総会 開催

2021年6月12日、湘南キャンパスE301教室にて、グローバルスタディーズ学部「第13回後援会定期総会」を開催しました。後援会定期総会では、2020年度事業報告案および決算報告案、2021年度事業計画案および予算案の承認、後援会役員の選出が行われました。定期総会終了後には、安田震一副学長兼学部長によるSGSの現況報告、各委員長からの学生生活/留学、就職、学業についての説明がありました。

(1) SGS活動報告 副学長・グローバルスタディーズ学部長 安田 震一

今年の2年生から4年生のコース分け（メジャー登録）はホスピタリティ・マネジメント349名（72.3%）、国際教養125名（25.9%）、未回答9名（1.9%）。教職課程には1～4年生56名が取り組み、卒業論文提出には5～6名の学生によるチャレンジを期待。藤沢市・昆明市友好都市締結40周年記念事業として、今年5月25日に雲南大学滇池学院（28名）とSGS（21名）の学生が、日本と中国の大学生生活の違いをテーマにオンライン文化交流を実施。6月10日には一般社団法人寒川町観光協会との連携協定調印式を行い、寒川町が新たな学びの場となります。株式会社ショーナンとの「湘南ワイン用のブドウ栽培」は秋学期も開講予定です。

(2) 学生生活/国際交流 グローバルスタディーズ学部准教授・学生委員長 竹内 一真

学生生活における感染症対策、大学でのルール、留学・海外研修について説明しました。2021年夏休み短期留学はオンライン留学を推進、2022年春出発に向けた説明会を今後実施予定です。

(3) 就職支援とコロナ禍の影響について グローバルスタディーズ学部教授・就職委員長 堂下 恵

企業の採用予定数の増減や採用方針・採用基準などコロナ禍における採用活動の変化、キャリア支援講座やオンライン就活対策等学内の支援活動、就職活動スケジュールについて説明しました。

(4) 学業について グローバルスタディーズ学部教授・教務委員長 太田 哲

SGSでの学びの特徴、4年間で大学を卒業するための基本、履修登録の手続き、重要な基礎科目（1年生）、教職課程、学修支援室、基本ルールなど大学生活で必要とされる事項について説明しました。



後援会定期総会の様子



安田副学長・学部長の報告



竹内学生委員長による説明



堂下就職委員長による説明



太田教務委員長による説明

三井情報株式会社 浅野謙吾社長 × 多摩大学 寺島実郎学長

経営情報学部では、「経営情報論Ⅰ」（担当教員：小林英夫、内藤旭恵）の授業において、「三井情報株式会社（MKI）」（本社：東京都港区、代表取締役社長：浅野謙吾氏）の社員をゲスト講師として招き、2021年6月10日から7月8日までの毎木曜日、全5回のリレー講座を開催しました。授業では、日本の情報産業の最前線で活躍している方々により、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」「バイオインフォマティクス」「ビッグデータ」など毎回異なるテーマで、実践的かつ最新の情報が学生たちに伝達されました。

		テーマ	講師
第1回	6月10日	「DXと最新情報技術動向について」	R&D部 部長 青木 賢太郎 氏
第2回	6月17日	「バイオインフォマティクス」	バイオヘルスケア技術部 バイオサイエンス技術室 室長 高橋 順子 氏
第3回	6月24日	「デザイン思考」	技術推進部 シニアコンサルタント 高瀬 恭太郎 氏
第4回	7月1日	「ビッグデータ活用の現状と未来」	技術推進部 プリンシパル 熊田 憲治 氏
第5回	7月8日	「ニューノーマル時代における健康DXへの挑戦」	バイオヘルスケア営業部 営業室 マネージャー 丸山 智規 氏

2021年8月20日に行われた対談では、三井情報株式会社（MKI）代表取締役社長の浅野謙吾氏と本学寺島実郎学長が、MKIの歴史と学長との接点、MKIおよび多摩大学の在り方やこれから目指すべきことなどをテーマに語り合いました。

寺島学長：日本の情報産業で仕事をしている人たちの生の話を学生たちに聞かせたいという願いに応えていただき、感謝しています。MKIの現場を支えている人たちによる講義は学生にとって刺激となり、大きな気づきを与えてくれました。改めて実学が非常に意義あることだと思ひ知りました。同時に最先端の授業を真剣に行ってくれたMKIの誠実さにも敬服しています。私が三井物産に入社したのは1973年、MKI（MITSUI KNOWLEDGE INDUSTRY）は三井物産の情報システム部門から独立し1967年に設立されていました。多摩大学は1989年に経営情報学部を柱とした大学として東京郊外でスタートしました。まさに冷戦後のIT革命およびグローバル化という、我々が生きていく時代への転換期に創立されたのです。私が学長に就任してから12年になりますが、自分が触れてきた情報革命という歴史の変化が自分自身の運命を変え、それに関わるいろいろな人の人生も変えてきたのだと思っています。

浅野社長：MKIはITの新しい技術を取り入れ、学び、研究して世の中に出して終わりではなく、三井物産グループの事業価値を高めていく努力が必要とされる会社です。例えば私たちは1975年からバイオインフォマティクスにも取り組んできました。医学が専門ではありませんが、現場をIT面で支え、研究だけで終わらせないことを信条とし、DXで結び付けることで世の中にリアルなものを出していくのです。このようなDXに関わっているメンバーが、今回、講師として参加しています。彼らも学生の方々の生の声を聞くことができてうれしかったようです。

寺島学長：多摩大学は地域に根差した大学として、多摩地域に貢献できることは何かと模索してきました。産官学連携が非常に重要と考え、多摩市、多摩信用金庫と提携しています。三者が連携

し、地域にリンクした活動をすることで、地域の抱える課題が見えてくる。課題解決の役割の一部分を担うのが会社の持つエネルギーであり、次の展開への道筋となります。刺激を受けた学生の中から、自分も社会的存在として知見を深め貢献していこうと考える者が必ず出てくるはず。そのような思いが行動につながる。今回のMKIとの接点も些細に見えますが、実は大きなスタートだと思っています。

浅野社長：初代学長野田一夫さんの大学設立までの歩みや寺島学長の新入生に向けたメッセージから、多摩大学は実業を意識した教育機関であり、人間性を大事にし、挑戦する心を大切にす大学であるという印象を受けました。そのようなベースがあるからこそ、多摩という地域で新しいことに挑戦する人たちとつながりを持てるのだと思いました。MKIは三井物産の社内システムの運用から始まったのですが、システムを作る会社はお客様の要件を満たすという受動的な姿勢になりがちです。しかし、データを集めて新しい活用モデルを作る、テクノロジーの知識と経験をもとに主体者としてお客様と一緒に事業に取り組んでいく、挑戦の心や意識をもっと高めていきたいと思っています。

寺島学長：藤沢にあるグローバルスタディーズ学部は英語学習に力を入れ、ホスピタリティを軸とした仕事を志す人などグローバル化に向けた高度サービス人材を育てています。また、大学院は社会人として何年も働いてきた人たちが、知の再武装、さらに学ぶことを望んで戸を叩く社会人大学院です。ルール形成戦略研究所、社会的投資研究所など複数の研究所があり、一流の人材を集めて専門的な知識を深めています。連携することで、MKIの機動力になるものもあるでしょう。MKIの発展のためにも、ぜひ活用の方法を考えてもらいたと思います。



浅野謙吾社長



寺島実郎学長

両学部で新たな取組みが始動

【経営情報学部】 学部新卒者の即戦力雇用に対応した「ジョブ型人材育成コース」を新設

経営情報学部は、これまで専門性の高い学習機会の提供に努めてきましたが、このたび社会の流れに対応すべく、これまでの取り組みを発展させ、新たに2つのコースを開設します。新コースでは、特定分野の専門教員のゼミや授業に参加し、少人数制の丁寧な指導のもとで深く学ぶとともに、寺島実郎学長が主催する「インターゼミ」等のプログラムにも参加可能です。本コースを通じ、よりの確に産業や企業の問題解決に貢献し、かつ社会変化にしなやかに対応することのできる人材育成を目指します。

先端的マーケティング心理コース

これからの経済・経営に不可欠なデータサイエンスを深く学び、加えて心理学の知見をマーケティングに生かし、データ時代の経営をリードする創造的マーケターを育てます。

マーケティングデータ分析や心理学を学ぶことで、世の中の仕組みを理解してビジネスに応用することを学んでいきます。

専門的に学ぶ授業科目・ゼミ分野

- ・消費心理学、行動経済学 ・データサイエンス
- ・マーケティング ・デザイン思考、デザイン経営
- ・業界分析

想定される進路

- ・データ分析部門のデータサイエンティスト
- ・マーケティング部門のデータマーケター
- ・WEB マーケター ・社会調査士

実践的ビジネスエンジニアリングコース

ビジネス現場での即戦力として活躍できる人材の育成に特化したコースです。在学中のビジネス・シュミレーションの経験を通じ、イノベーターシップを備えた人材として活躍することを意図しています。授業では、例えば本格的なシュミレーションゲームを通じビジネス、経営についての理解を深め、社会で必要な知識を楽しみながら学んでいきます。

専門的に学ぶ授業科目・ゼミ分野

- ・経営シュミレーションゲーム ・財務・会計 ・組織運営
- ・コミュニケーション学・デザイン思考、デザイン経営

想定される進路

- ・グローバルビジネスや地域ビジネスの最前線のビジネスパーソン
- ・財務会計部門のスペシャリスト
- ・戦略的広報スタッフ ・起業家

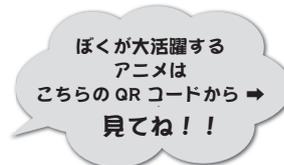


コース紹介のためのスペシャルコミック

詳細は、新設コース特設ページからご確認ください。 https://www.tama.ac.jp/faculty/smis/new_course.html



多摩大学マスコットキャラクター
ほーくん



【グローバルスタディーズ学部】 新カリキュラムを開始

グローバルスタディーズ学部は、2022年度より新たなカリキュラムを導入します。社会のグローバル化が加速する現在、世界の動きを理解し、それが国際社会や地域社会に与える影響を考察し、ビジネス界をはじめとするあらゆる分野で社会的課題に貢献できる人材が求められています。これに対応するための国内及び世界の情勢を幅広い視点から捉えられる総合力を育成するカリキュラムとなります。

■新カリキュラムの特徴

(1) 基礎教育科目・英語集中教育科目の充実化

- ・長期的かつ体系的な英語学習の促進のため、1年次の必修に加え、2・3年次に選択必修を配置する科目編成。

(2) ゼミナール科目の充実化

- ・1年次からのゼミナール所属を必須化し初年次教育プログラムの明確化及び強化を図る科目編成。

(3) 専門教育科目の充実化

- ・「ホスピタリティ・マネジメントコース」は、国際系に位置付けられる観光コースとして、グローバルを意識して観光学の基礎・応用を体系的に学修できる科目編成。
- ・「国際教養コース」は、グローバルな視野と実践的なビジネス知識を体系的に学修できる科目編成。
- ・当該分野に精通する指導教官のゼミに所属し、専門知識を修得できる科目編成。

■コア人材を育成する特別育成プログラムを用意

(1) グローバルキャリア育成プログラム

- ・グローバルビジネスや国際社会での活躍を目指す。
- ・国際公務員、海外就職、国内外資系企業、日系企業海外営業、海外大学院、国際NGOなど。

(2) 高度観光・サービス人材育成プログラム

- ・ホテル、観光産業のマネジメントクラスを目指す。
- ・外資系ホテル、日系高級ホテル&リゾート、高級旅館、地方自治体観光協会、海外大学院など。

(3) 中学・高校英語教育育成プログラム

- ・未来のグローバル人材を育てる中・高英語教員を目指す。
- ・英語圏のみならず非英語圏などグローバルな視点を持った中・高英語教員を目指す。

多摩市・稲城市・京王観光株式会社・多摩大学総合研究所連携事業
「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」

タマリズムマッチング会を開催

2021年8月3日(火)、多摩市・稲城市・京王観光株式会社・多摩大学総合研究所連携事業の「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」タマリズムマッチング会を京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターのアウラホールにて実施しました。

本プロジェクトは、地域における実用可能なマイクロツーリズムプランの構築から、継続性のある地域活性化を目指し、学生を企業や自治体のハブ役とすることで、コロナ禍で活動が狭められている意欲ある学生に活動フィールドを提供し、地域で挑戦する学生の取り組みを応援します。

当日は、同コンテストに応募した大学から28チーム66名(学生・教員)が参加し、企業・自治体から40団体87名の方にお越しいただきました。

くじ引きで決めた偶然マッチング、企画内容のプレゼンテーションによるチーム紹介、自治体、観光協会、企業の方に学生ブースにお越しいただく自由マッチングを行い、実現性を高めるための交流を図ることができました。



タマリズムポスター



長島ゼミの学生による企画



学生ブース



スタッフ集合写真(撮影時のみマスクをはずしています)

タマリズム活動支援金審査会を開催

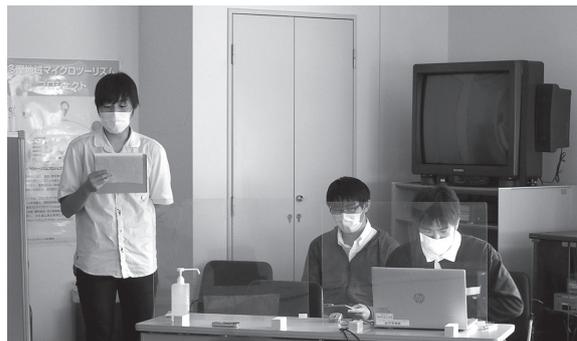
9月3日(金)には、タマリズム活動支援金審査会を稲城市地域振興プラザ(東京都稲城市)にて実施しました。

当日は、同コンテストに応募した大学から21チーム76名(学生)が任意参加し、企画書の説明を行い、審査員による質疑応答が行われました。

課題解決力、継続性、地域活性化、コロナ対策、SDGs、創意工夫、熱意・意欲などの項目に基づいて総合的に審査した結果、上位10チームに活動支援金として10万円を支給し、プロジェクト活動を応援します。

タマリズムマッチング会・タマリズム活動支援金審査会は、多摩大学総合研究所が実行委員会として携っており、経営情報学部 長島剛ゼミが企画しています。

今後は、2022年2月にかけてフィールドワーク(実証実験期間)を行います。



学生による企画書説明

多摩地域の企業と多摩大学

「多摩ブルー・グリーン倶楽部 経営研究交流会」開催

2021年7月8日(木)、多摩キャンパスにて多摩信用金庫および多摩ブルー・グリーン倶楽部会員企業10社にお集まりいただき、「多摩ブルー・グリーン倶楽部 経営研究交流会」を開催しました。

本研究会は、多摩地域の優良企業と継続的な接点をつくることで、学生の就職、共同研究、講義やゼミへの連携に繋げることを目的としています。キックオフとなる今回は、寺島実郎学長、多摩ブルー・グリーン倶楽部 会長 上野邦香様、多摩信用金庫 理事長 八木敏郎様よりご挨拶を頂いた後、多摩大学総合研究所所長 松本祐一教授より、研究会の主旨を説明しました。

続いて、企業と大学におけるインターンシップの現状を共有するべく、初見康行准教授による「大学生の就職活動とインターンシップの現状」をテーマとしたキーノートスピーチ、京西テクノス株式会社、エム・ケー株式会社の事例紹介をもとに、4グループに分かれて、意見交換を行いました。

限られた時間でしたが、企業、本学教職員ともにインターンシップの重要性を再認識する機会となりました。

今後は、9月16日(木)に本学学生によるパネルディスカッションを含む「学生からみたインターンシップ」をテーマとした第2回研究会、第3回研究会(テーマ:新たなインターンシッププログラム)が11月18日(木)に開催予定です。



寺島学長ご挨拶



初見准教授によるキーノートスピーチ



意見交換会

寒川町観光協会と多摩大学

(一社)寒川町観光協会とグローバルスタディーズ学部の連携に関する協定調印式を挙行政

2021年6月10日(木)、一般社団法人寒川町観光協会と多摩大学グローバルスタディーズ学部は、相互的人的及び知的資源の交流等により、観光に関する地域振興等での連携及び協働を推進し、地域経済の発展や実学の促進に寄与することを目的とした連携に関する協定を締結しました。

当日は、寒川町観光協会、寒川町、多摩大学の関係者の参加のもと、島村繁 寒川町観光協会会長、安田震一 副学長による協定書への署名が行なわれました。

寒川町観光協会とグローバルスタディーズ学部は、2017年の農泊に関わる協議会への参画をきっかけに、イベントの開催及びサポート活動、寒川神社参拝者アンケート調査をはじめ、2020年の寒川町観光協会ホームページの多言語化を進め連携を深めて参りました。

本連携協定締結により、今後、更に緊密な連携を図り、コロナ禍に対応した観光振興を支え、地域の発展と次の時代に活躍する人間形成に向けた実学の促進に寄与して参ります。



お知らせ

多摩キャンパス

2021年11月13日(土)・14日(日)

経営情報学部

第33回 多摩祭

「コネクト：地域と仮想空間と社会と」

オンラインにて
開催!!

湘南キャンパス

グローバルスタディーズ学部

第15回 SGS Festa 2021

「Beginning ～ド派手にやっつまおうぜ～」